

海上公園とは

かつて、東京の海は豊富な魚介類に恵まれ、水遊びや釣りなどが楽しめる憩いの場であり、人々の日常生活と深いつながりのある空間でした。

しかし、昭和30年代からの高度経済成長に伴い、大規模な埋め立てが進み、工場が立地し、港の拡張が続けられた結果、生活の場としての「東京の海」は忘れられ、都民は身近に海にふれあう場を失ってしまいました。

そこで、かつて都民生活に海が果たしてきた役割をあらためて見直し、都民が海や自然とふれあい、スポーツやレクリエーションを楽しめる場として、東京の埋立地に公園を整備していくことになりました。これらの公園のことを「海上公園」と呼んでいます。

「海上公園」は次の3つの種類に分けられます。

海浜公園

水域における自然環境の保全及び回復を図るとともに、水に親しむ場所として都民の利用に供することを目的とした公園



ふ頭公園

ふ頭内の環境の整備を図るとともに、みなとの景観に親しむ場所として都民の利用に供することを目的とした公園



緑道公園

臨海地域における自然環境の回復を図るとともに、緑に親しむ場所として都民の利用に供し、あわせて海上公園の一体的な利用を促進することを目的とした公園



海上公園の生き物たち



ここで紹介する生き物は各公園での目撃情報等を基に掲載していますが、来園時に必ずしもご覧になれるとは限りませんのでご了承ください。

魚介類

運河沿いの公園や若洲海浜公園、城南島海浜公園などでハゼやスズキなどが釣れます。また、最近ではお台場海浜公園や葛西海浜公園でアユの稚魚が見つかるようになりました。お台場海浜公園や葛西海浜公園、城南島海浜公園ではアサリもしくはシジミが採れ、季節には潮干狩りの人々に賑わっています。

カニ類

大井ふ頭中央海浜公園なぎさの森や東京港野鳥公園の干潟では、インガニ、ケフサイソノガニ、ヒライソノガニ、チチュウカイミドリガニ、チゴガニなどが生息しており、東京港野鳥公園ネイチャーセンター地下1階ではチゴガニがいっせいにさみをふって出迎えてくれます。

鳥類

運河や海上でよく見られる鳥としては、カワウやカルガモ、オナガガモ(冬)、スズガモ(冬)、ユリカモメ(冬)、ウミネコ(夏)、カイツブリ、コアジサシ(夏)などが一般的です。その他、カワセミは大井ふ頭中央海浜公園や東京港野鳥公園で見かけられます。東京港野鳥公園ではオオタカや各種のシギ・チドリ類、カモ類、バンなどの水鳥を中心に年間に120種類前後の鳥たちが見られます。



海上公園をとりまく東京港や臨海副都心の歴史、現在、そして未来についてご紹介しています。

400年の埋め立ての歴史が分かるタッチパネルモニター、AR映像を体験できる「みなとづくりバーチャル探検」、地上100メートルから望む景色などを楽しむことができます。

- 開室日：火曜日～木曜日・日曜日10時～18時
金曜日・土曜日・祝前日10時～21時
- ※最終入室は閉室時間の30分前まで。
- 休室日：月曜日・年末年始（12月28日から翌年1月4日まで）
- 所在地：〒135-0064 東京都江東区青海2丁目4番24号青海フロンティアビル20階
- 問合先：TEL：03-5500-2587 FAX：03-5500-2589
- 交通アクセス：ゆりかもめ「テレコムセンター駅」徒歩1分
りんかい線「東京テレポート駅」徒歩15分
- HP:<https://www.tokyo-minatorie.com>
- ※入室無料

